

令和6年度 大阪府立牧野高等学校 第1回学校運営協議会 議事録

日時 令和6年7月10日(水) 15:30~17:00

場所 大阪府立牧野高等学校 校長室

出席者(敬称略)

協議会委員 松宮 新吾(会長)、有堀 正彦(副会長)、薙井 順子、尾崎 由美
森 隆裕、辻本 智子

学校長 高松 智

事務局 川村 大作、大道 香央利、中務 正和、清原 一輝

1. 開会

① 会長・副会長の決定

*事務局案 会長 松宮 新吾 委員
副会長 有堀 正彦 委員

⇒ 承認

② 会長挨拶

皆さんこんにちは。今年度は、多くの運営協議会委員が変更になりました。多様な観点で牧野高校の学校の教育の運営であったり、提言であったりといったようなものをお伺いすることができることを楽しみにしております。特に今年度に関しましては、2022年に年次施行された学習指導要領が完成年度を迎えるということですので、観点別評価であったり、また探究の時間であったり、そのあたりの教育成果が問われる時期となっております。また、教育DXということで、様々なものがデジタル化されてきております。教職員の業務はもちろん言うまでもなく、来年度の入試に至っては、ウェブ出願、パソコンに必要事項を入力して出願するといったことやデジタル採点の実施など、新たな時代へと入ってきているわけですね。また、人工知能の登場などそのような中で、教員の役割とか教育のあり方とかが問われる面白い時期に差し掛かっているというふうに思っております。

本日は、第1回目ということになりますので、昨年度の評価のアップデートをしていただいた上で、令和6年度の学校教育計画、これについて具体的な説明があるというふうに考えております。どうぞよろしく申し上げます。

③ 校長挨拶

皆さん、こんにちは、校長の高松でございます。本日はご多用にもかかわらず、本校の学校運営協議会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。新しい委員さんをお迎しての協議会、どうぞよろしくお願い致します。

新型コロナウイルスが五類になって、ちょうど一年余りになりました。一年前は五類になったとはいえ、感染が心配でいろいろな対策をしていましたけれども、今は、そういった対策もほぼすることなく、もう完全にコロナ前の状態に戻った感じがしております。生徒を見ていましてマスクしている生徒は、1割もいないのではない

かと感じております。

体育祭も先日行いましたけれども、入場制限をなくして実施をいたしましたところ、900人近い保護者の方、地域の方がお見えになりました。

9月には牧高祭いわゆる文化祭があり、10月には修学旅行があり、11月には学校説明会が予定されています。学校説明会は、今年も昨年と同じように生徒がすべて運営する形で行うということを考えております。

勉強や進学実績だけではなく学校行事も魅力という本校の特色をしっかりとアピールして、中学生に選ばれる学校でありたいと思っています。公立高校を取り巻く状況は年々厳しいものがありますが、委員の皆様のお知恵をお借りして、よい学校にしていきたいと考えておりますので、どうぞ忌憚ないご意見を頂戴できればと思っております。よろしくお願いいたします。

2. 令和5年度学校経営計画及び学校評価について・・・学校長より説明

- 会長・・・最新版にアップデートされている部分の説明をいただきたい。
- 校長・・・昨年度第3回の本協議会で示した資料に、未確定であった大学入試の結果等を新たに記載し、自己評価については色分けするなどの工夫をして記載している。

3. 令和6年度学校経営計画について・・・学校長より説明

- 会長・・・最新版にアップデートされている部分の説明をいただきたい。
- 校長・・・昨年度第3回の本協議会で示した資料に、未確定であった大学入試の結果等を新たに記載している。昨年度のものをベースに作成しているが、一部数値目標や表記を変えているところがある。変更したところについては、色分けするなどの工夫をして記載している。

⇒ 承認

4. 令和7年度教科書採択事務について・・・清原首席より説明

⇒ 承認

5. 第46期生（令和6年度3月卒）進路結果・・・中務首席より説明

- 会長・・・生徒たちの進路決定は、主体的（自主的）に決定されているのか。
- 事務局・・・進路指導部・担任を中心に、生徒1人ひとりが自分の希望を考えて進路を決定できるようにサポートを行っている。

6. 協議

- 会長・・・学校教育自己診断の指標がほぼ上限まできているように感じる。例えば、ICTの活用については、ほぼ達成できているので、すべての学校で同じ質問になっていると思うが、これからは、単に「ICT機器を活用しているか」といった指標ではなく、「ICT機器を使ってどのような力が身についたか」といった内容を問う視点をもつようなことを考えてもらいたい。
- 委員・・・カウンセリングマインドを取り入れた指導とはどういったものか
- 事務局・・・例えば、遅刻指導をする際、頭ごなしに「遅刻はいけない」という指導をするのではなく、なぜ遅刻をしたのか生徒に聞くことをしている。家庭の事情なのか、体調不良なのか、遅刻をしてきた理由を聞くことで生徒の背景が見えてくる。その背景に応じた指導をしていくということである。
- 会長・・・中学生のキャリア教育はどんな感じか。
- 委員・・・生徒の学力等にかなり幅があるので、個々の生徒にあったきめ細かい対応が必要になるが、1年生のころからどのように生きるのかということについて考え、段階的に進路を決定していくようにしている。コロナ禍があげ、2年生では、企業と連携して職場体験学習などを行ったりしている。
- 委員・・・浪人はどれくらいいるのか。
- 事務局・・・例年10人前後しかいない。現役志向の強い学校である。多くの生徒は、何が何でもこの大学というよりは、自分の学力にあった大学に進学している。
- 委員・・・各大学同じような学部を設けているので、特に大学にこだわらずに進学することもできると思うが、生徒はどのように考えているのか。
- 事務局・・・公募制入試で滑り止めを確保した上で、一般入試で第一志望を受験する生徒が多い。また文系では、一人の生徒が受験する学部も多岐にわたっていることが多い。理系の場合は、学びたいことが決まっていることが多いので、そのようなことは少ない。
- 委員・・・今年入学してきた、生徒の特徴を教えてください。
- 事務局・・・非常に元気があり、部活動にも積極的に参加している。上級生に迫るような技術や積極的な気持ちを持つ生徒も多い。
- 委員・・・部活動は活発に活動しているが、指導できる先生は、継続的にいるのか。競技によっては、他校との連携など、工夫されていると思うが、どういう状況か、教えてください。
- 事務局・・・柔道部は、部員が少ないので、合同で他の学校と一緒に活動している。指導者については、専門の先生がいるクラブもあれば、そうでないクラブもあるので、専門の指導者がいない部活動では、外部の方を部活動指導員という非常勤職員に雇用して、技術指導や大会の引率をしてもらっている。
- 委員・・・ICT機器の活用については、どのような方策が行われているか、教えてください。
- 事務局・・・教員間で、成功事例を共有しながら、活用する範囲を拡充していつている。総合的な探究の時間では、クロムブックを活用した調べ学習を行い、生徒たちの発表の質が向上している。

- 委員・・・デジタル採点の活用状況を教えていただきたい。
- 事務局・・・デジタル採点を、一度やってみると、とても素晴らしいと教員間で好評である。時間も削減され、生徒の解答を横並びで確認できるので、採点基準もしっかりと決めることができている。多くの教員が活用できるようになってきた。
- 委員・・・月の残業時間が多いようなので、働き方改革をより一層すすめていただきたい。
- 事務局・・・部活動に熱心な先生が、時間外勤務が多くなっている。ただ本人は、そのことを苦にしていないこともあり、ワークライフバランスの観点での難しさを感じている。
- 委員・・・大学のオープンキャンパスとか行くように生徒にすすめたりしているのか。
- 事務局・・・2年生では夏休みの宿題で2つの大学のオープンキャンパスに行くように言っている。行く大学は生徒が決めている。3年生は、多くの大学に学校に来てもらっての説明会を実施し、生徒は自分の興味ある大学の説明会に参加している。ただ、先輩が行った大学に進学したがる生徒も多いので、進学先の傾向は例年同じようになりがちである。
- 委員・・・国公立大学への受験は近畿圏の大学が多いのか。
- 事務局・・・その通り。保護者の意向もあり、地方に行く生徒は少ないので、地方の国公立大学も魅力がたくさんあることをアピールしている。

7. 連絡

第2回の協議会は12月上旬、第3回の協議会は2月上旬で予定。

⇒ 承認

8. 閉式・・・学校長よりお礼